センターだより

第87号
令和8年9月28日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123　青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997　FAX017-728-6351

あおもり教育研究発表会２０２６のお知らせ

開催期日：令和8年11月13日（金）
開催場所：青森県総合学校教育センター

参加の申込みは、こちらの二次元コードの読み取りからできます。

※当日の講演や発表は、全てオンラインでのご参加が可能です。（要申込み）
※「センター研究発表」「２年目研究員研究発表」は、後日オンデマンド配信しますので、希望する場合は、お申込みください。（視聴可能期間：11月24日～12月25日）

日　程

9:00	9:30	9:40	11:30	12:00	13:00	14:10	14:20	15:50	16:00
受付	開会行事	2年目研究員研究発表	センター研究発表	昼食休憩	センター研究発表	休憩	講演	閉会行事	

講　演



【演題】「子供を主語にする主体的な学びを充実させるための学級・集団づくりを目指して」
【講師】日本大学 生物資源科学部 教授 **熊谷　圭二郎**　氏
【主な役職等】
専門は学校教育、教育心理学、カウンセリング、コーチング等
・日本教育心理学会、日本教育カウンセリング学会、日本学級経営心理学会 等に所属
・全国各地で講演を行うとともに論文を多数発表。多くの書籍にも執筆される等ご活躍中。
＜書籍等出版物＞
『生徒指導・進路指導の理論と実際』『教育相談の理論と実際』『教育の原理と実践』
『開かれた協働と学びが加速する教室』『実践「みんながリーダー」の学級集団づくり』
『教育心理学の理論と実際:発達と学習の効果的支援をめざして』『教室「心理術」大全』

展　示

展示場所	展示内容
特別支援教育課棟	特別支援教育教材・教具展示会
中研修室前	図書資料室にある書籍等の紹介、ポスター（センター職員の「わたしのお勧めの一冊」）
1階ロビー	令和7年度　2年目研究員研究ポスター

2年目研究員研究発表

① 9:40～10:10

発 表 者	研 究 主 題	発表会場
出町　理奈 （特別支援教育課）	SWPBSが特別支援学級の児童の行動に与える効果に関する研究 ～縦割り清掃の場面に着目して～	大研修室

② 10:15～10:45

発 表 者	研 究 主 題	発表会場
佐藤　弘和 （産業教育課）	中学校総合的な学習の時間におけるSTEAM教育の視点を取り入れた主体性を育む指導法の研究 ～情報活用能力を基盤とした探究的な学習を通して～	大研修室

③ 10:50～11:20

発 表 者	研 究 主 題	発表会場
一戸　舞祐 （教育相談課）	小学校小規模校における常態的・先行的生徒指導の取組に関する研究 ～社会的資質・能力を育成するプログラムの作成と実践を通して～	大研修室

センター研究発表

～一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて（2/2年次研究）～

① 11:30～12:00

グループ名	研究テーマ	発表会場
義務教育課	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方研究	大研修室
高校・産業教育課 遠隔教育推進課 <遠隔授業ユニット>	生徒の思考を深める遠隔授業のデザイン	CAD/CG 研修室
	生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について ～効果的な遠隔教育の配信方法について～	

② 13:00～13:30（高校教育課の3つのユニットは、13:00～14:10までの発表）

グループ名	研究テーマ	発表会場
高校教育課 <探究的な学びユニット>	教科における探究的な学びに関する研究	大研修室
高校教育課 <特別支援教育ユニット>	青森県内の高等学校における特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究	
高校教育課 <学習評価等ユニット>	生徒の豊かな学びを見取る観点別評価の充実に向けて	
特別支援教育課	省察と対話を核とした授業研究モデルの開発 ～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～	CAD/CG 研修室

③ 13:40～14:10

グループ名	研究テーマ	発表会場
教育相談課	グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援 ～子供が自分らしくいられる関係性の育成～	CAD/CG 研修室

２年目研究員研究の紹介 No.1

特別支援教育課　研究員　出町 理奈

01　研究主題

SWPBSが特別支援学級の児童の行動変容に与える効果に関する研究
～縦割り清掃の場面に着目して～

※SWPBS：学校規模ポジティブ行動支援（School Wide Positive Behavior Support）

02　研究目的

SWPBSによって学校全体の行動支援環境を整えることが、特別支援学級に在籍するA児のやりとりや関わりにどのような効果を与えるのかを検証する。

03　研究概要

ポジティブ行動支援（Positive Behavior Support）

「個々の問題行動を『減らす』ことだけに焦点を当てるのではなく、すべての子供たちが望ましい行動を『育てていく』ための環境づくりを目指す、包括的なアプローチ」（大久保,2025）とされています。そこで本研究では、児童個人への支援にとどまらず、学校全体で望ましい行動を教え、認める取組を行うことで、児童が望ましい行動を発揮しやすい環境づくりを目指しました。

研究のポイント

子どもが力を発揮できる環境への支援

子どもの行動を変容させることに指導の焦点を当てるのではなく、児童を取り巻く環境や教師の関わり方を整えることで、子どもが力を発揮しやすくする支援を行いました。

縦割り清掃（日常生活場面）での実践

学年や学級を越えて児童同士が関わり合いながら活動する縦割り清掃を実践場面とし、SWPBSにおいて第１層支援を行うことで、A児の行動がどのように変容するかを検証しました。

本研究におけるSWPBS　第１層支援の取組

- 教職員研修
- 全教職員での目標行動マトリクスの作成
- 全校朝会で児童へ目標行動の共有
- 清掃場所での教示・モデリング
- 適切な行動を称賛・承認（フィードバック）

SWPBSの導入の方法



神山努（横浜国立大学）
当センター研修資料より引用、一部改変

研究方法

対　　象：特別支援学級在籍児童
期　　間：令和８年４月～７月
検証場面：縦割り清掃　全１５回
検証方法：ABデザイン法を用いて介入前後の児童の行動を比較し、その変容をみる

２年目研究員研究の紹介 No.2

産業教育課　研究員　佐藤 弘和

01　研究主題

中学校総合的な学習の時間における
STEAM教育の視点を取り入れた主体性を育む指導法の研究
～情報活用能力を基盤とした探究的な学習を通して～

02　研究目的

中学校総合的な学習の時間において、情報活用能力を基盤としたSTEAM教育の視点を取り入れた探究的な学習を充実させることが、主体性を育むことに有効であることを明らかにする。

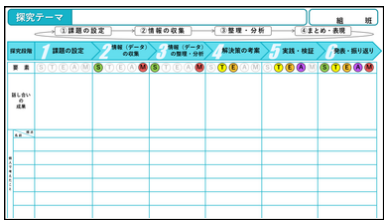
03　研究概要

１．STEAM教育

Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsを横断的に学び、実社会の課題解決に生かす教育です。探究的な学びを重視し、課題解決力や創造力、主体性、情報活用能力などの育成を目指しています。本研究ではその中でも「数学 × 技術」に焦点を当て、主体性を育む授業づくりに取り組んでいます。



２．STEAM探究プロセス（STEAM探究チャートの使用）



STEAM教育の視点を取り入れた探究的な学びを進めるため、総合的な学習の時間における「探究のプロセス」を基に、「①課題の設定→②情報の収集→③情報の整理・分析→④解決策の考案→⑤実践・検証→⑥発表・振り返り」の「STEAM探究チャート」を作成しました。デジタルホワイトボードアプリで共有し、意見を可視化しながら協働的な探究を促し、多面的・多角的な視点から話し合いを深めることをねらいとしています。

３．研究のポイント

Society5.0時代に求められる資質・能力の育成を目指し、情報活用能力を基盤とした探究的な学習を通して、主体性を育む授業づくりに取り組みました。

- 情報（データ）の収集・整理・分析を基盤とした探究的な学習
- 教育用マイコンボード「micro:bit」を活用した地域課題の解決
- プロトタイプの作成から実践・検証までを重視した探究活動
- 主体性の育成を目指した授業づくり



４．研究方法（２年目）

対　　象　中学校第２学年
期　　間　令和８年５月中旬～７月中旬（週２回のペースで実施）
時　　数　事前指導（1時間）＋ 総合的な学習の時間（14時間）計15時間
単 元 名　「未来のくらしをデザインしよう」
検証方法：①テキストマイニングツールによる振り返り記述の分析
②中学生における主体的学習態度尺度で主体性の変容をみる
③STEAM教育の先行実践を参考に作成した意識アンケートなど



図書交流施設を題材とした授業を行いました

２年目研究員研究の紹介 No.3

教育相談課　研究員　一戸　舞祐

01　研究主題

小学校小規模校における
常態的・先行的生徒指導の取組に関する研究
～社会的資質・能力を育成するプログラムの作成と実践を通して～

02　研究目的

人間関係の固定化が見られる小学校において、より良い人間関係を育むプログラムを実施することで、児童の社会的資質・能力が高まることを明らかにする。

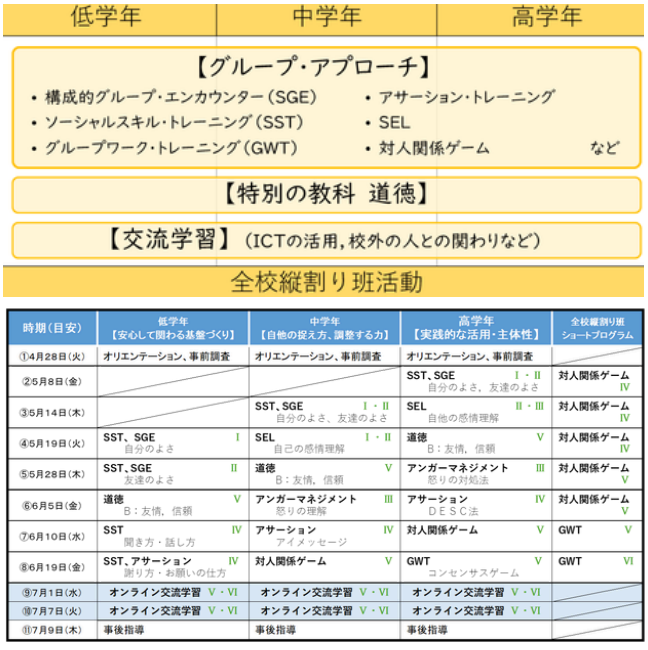
03　研究概要

「より良い人間関係を育むプログラム」

昨今、いじめや不登校など、生徒指導上の諸課題が年々増加しています。その背景には、子どもたちを取り巻く環境や人との関わり方の変化など、様々な要因があると考えられます。

へき地・小規模校では、少人数ならではのよさがある一方、人間関係が固定化しやすく、多様な他者と関わる機会が限られる傾向があります。そこで本研究では、より良い人間関係を築くために必要な社会的資質・能力の育成を目指しました。

グループでの活動を中心に発達段階に応じたプログラムを実施するとともに、全校縦割り班で行うショートプログラムや、他校児童との交流学習などを通して、身に付けた力を実際の関わりの中で生かし、そのよさを実感できる場面を設定しました。



時期（目安）	低学年【安心して関わる基盤づくり】	中学年【自他の捉え方、調整する力】	高学年【実践的な活用・主体性】	全校縦割り班ショートプログラム
①4月28日（火）	オリエンテーション、事前調査	オリエンテーション、事前調査	オリエンテーション、事前調査	
②6月8日（金）			SST、SGE Ⅰ・Ⅱ 自分のよさ，友達のよさ	対人関係ゲーム Ⅳ
③5月14日（木）		SST、SGE Ⅰ・Ⅱ 自分のよさ、友達のよさ	SEL Ⅱ・Ⅲ 自他の感情理解	対人関係ゲーム Ⅳ
④5月19日（火）	SST、SGE Ⅰ 自分のよさ	SEL Ⅰ・Ⅱ 自己の感情理解	道徳 Ⅴ B：友情，信頼	対人関係ゲーム Ⅳ
⑤5月28日（木）	SST、SGE Ⅱ 友達のよさ	道徳 Ⅴ B：友情，信頼	アンガーマネジメント Ⅲ 怒りの対処法	対人関係ゲーム Ⅴ
⑥6月5日（金）	道徳 Ⅴ B：友情，信頼	アンガーマネジメント Ⅲ 怒りの理解	アサーション Ⅳ DESC法	対人関係ゲーム Ⅴ
⑦6月10日（水）	SST Ⅳ 聞き方・話し方	アサーション Ⅳ アイメッセージ	対人関係ゲーム Ⅴ	GWT Ⅴ
⑧6月19日（金）	SST、アサーション Ⅳ 断り方・お願いの仕方	対人関係ゲーム Ⅴ	GWT Ⅴ コンセンサスゲーム	GWT Ⅵ
⑨7月1日（水）	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	
⑩7月7日（火）	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	オンライン交流学習 Ⅴ・Ⅵ	
⑪7月9日（木）	事後指導	事後指導	事後指導	

研究方法

対　　象：小学校１・２学年、３・４学年、５・６学年
　　発達段階によって求められる社会的資質・能力が異なるため、各発達段階に応じてプログラムの内容や時数を調整した。
期　　間：令和８年４月～７月
検証方法：①「学校適応感尺度（アセス）」、「児童生徒の学年・学校段階に応じたソーシャルスキル尺度」、「児童用社会的スキル尺度教師評定版」を用いて、児童の学校適応感や社会的スキルの変容をみる
　　②児童の振り返りの記述及び授業動画による行動観察



今年度の各課オススメ講座の様子紹介

今年度も各課では、日々の業務や実践に役立つ多彩な講座を企画しています。最先端の理論や実践事例について、大学教員やＮＩＴＳ職員を講師に招き、講義及び演習、協議を実施しています。ここでは、その中から各課が特におすすめする講座（実施済み）の様子を紹介します。

特別支援教育課　『インクルーシブ教育実践シリーズ』

D20

インクルーシブな学びを

支える通常学級の授業づくり

7/1（水）

9：30～15:30（1日）



早稲田大学大学院・教育学研究科・教授・髙橋　あつ子先生を講師に迎え、「通常の学級における学びのユニバーサルデザイン～学びの多様性に応える授業づくり～」というテーマで、演習を交えながらご講義いただきました。講義では、児童生徒の多様な学びを保障するUDLの考え方やUDLの視点を取り入れた授業づくりについて、事例の紹介や演習を交えながら分かりやすく解説していただきました。講座を通して、これまでの自身の授業を振り返るとともに、明日からの実践に生かしたいと大変好評でした。

【受講者の声（抜粋）】

- これまで一斉指導以外の指導はほとんど行ってこなかったが、それが、いかにこどもたちにとって無為な時間になっていたのかと痛感しました。新たな学びの重要性が提唱されている今、こどもたちに学びの舵取りを行わせるＵＤＬの考え方は、これからの時代を主体的に切り拓く上で大変重要な視点と考えています。まずは周りの『バリア』に対して意識的であることを心掛けたいです。
- ルーブリックを生徒に提示することで、それぞれが目標を明確にして、自ら学ぼうとしていくという点を、日々の授業で大切にすべきだと感じました。

D21

インクルーシブな学びを

支える行動理解と学級づくり

7/9（木）

9：30～15:30（1日）



横浜国立大学･教育学部･准教授･神山　努先生を講師に迎え､「ポジティブな行動支援から始める学級経営」と題してお話していただきました｡行動上の問題を､前後の状況（環境）に着目し､環境を工夫することにより予防するという考え方やSWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）について学び､受講者一人一人がそれぞれ学級づくりの新たな視点を得ることができたようです。

【受講者の声（抜粋）】

- 本人の行動や本人の理由（特性を持った子だから）ということばかりに､目を向けていたけれど､変えられるのは環境であることを学び､私自身の見方･考え方を変えたいと思った。
- 対処的な指導に偏っていたので､予防しながら望ましい行動を増やしていきたい。
- 「環境を変えてできたことはできたことになるのか」という悩みに対して､「学習のスタートに立つための支援であり､できるようになれば自然と支援は減る」という言葉に勇気をもらった。

義務教育課

C02
小学校
教科指導ICT 基礎講座

7/27（月）
9:30～16:00（1日）



授業のねらいに応じたICTの効果的な活用方法について学びました。算数・理科・外国語の講義や演習を通して、ICTを学びを支える道具として活用する具体的な方法を考えました。

【当日の様子：授業改善につなげる実践的な演習】

ICTを「何のために使うのか」という視点を大切にしながら、算数・理科・外国語の授業づくりをテーマに講義・演習を行いました。Google ClassroomやPadlet、ロイロノート・スクール等のICTツールを実際に操作し、児童の思考を深めたり、考えを共有したりする活用方法について体験的に学びました。

【受講者の声（抜粋）】

- ICTを活用する目的を明確にすることの重要性を改めて実感しました。児童の学びを深めるために、教材研究を進めながら効果的な活用を考えていきたいです。
- ICTの活用について、特にロイロノート・スクールとGoogle Classroomのそれぞれの特性や効果的な活用場面を知ることができ、大変参考になりました。今後の授業づくりに生かしていきたいです。
- 教科の特性に応じたICT活用について学ぶ機会があまりなかったため、大変勉強になりました。児童の関心を高めたり、思考を広げたりする場面で実践していきたいです。

教育相談課

D13
今日から始める不登校
対策研修講座

6/11（木）
10:00～16:00（1日）



明治大学・文学部・教授・諸富　祥彦先生をお招きし、不登校の本質を「心」ではなく「からだ」の視点から読み解く講座を開催しました。今年度は、不登校に伴いやすいゲーム・ネット依存への具体的な処方箋についても学びました。

【当日の様子：不登校は「からだ」のSOS・本音でつながる「安全基地」】

グループ演習では、誰もが本音を漏らせる「心の安全基地」づくりを体感しました。「雑談は相談につながる悩みの万能薬」であることを共有し、諸富先生の明るく前向きなエネルギーに包まれ、受講者の皆さんの表情も晴れやかに、エネルギーが充電された一日となりました。

【受講者の声（抜粋）】

- ゲーム・ネット依存への具体的な対策：依存からの脱却には「昼寝の禁止」と「朝9時までの外出」が極めて有効であると分かりました。生活リズムを整え、脳の血流を活性化させる実践を伝えていきたいです。
- チームでの早期対応：「3日目が勝負」。担任一人で抱え込まず、子どもが選ぶ「相性の良いスタッフ」が即座に動くチーム体制の重要性を痛感しました。
- 「できること探し」の作戦会議：原因究明（犯人探し）に時間を割くのではなく、「さしあたり今できること」を本人と一緒に考える前向きな支援を目指します。

産業教育課

D27
生成ＡＩ基礎講座

6/10（水）
9:00～12:00（半日）

様々な校種の先生方にご参加いただき、生成AI基礎講座を開催いたしました。「生成AI」に疑問や不安などを抱えた先生方と一緒に、生成AIを理解し、演習や協議を通じて、校務や授業での活用方法を考えていきました。

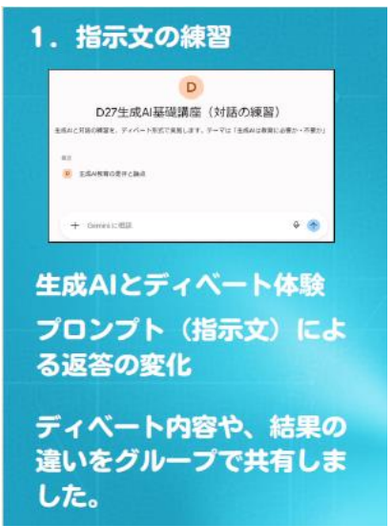
詳しい内容につきましては、下図をご覧ください。

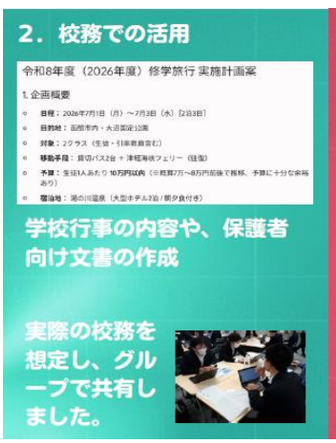
【受講者の声（抜粋）】

•生成AIがどのようなものかが分からなかったので、今回の講座でさまざま種類があることがわかりました。何度かChatGPTは使ったことがあったけれど、指示文をうまく伝えなければ求めている答えにならないことがわかりました。また、たくさんの演習を通して、具体的な活用の仕方を知ることができて大変学びになる時間でした。

•校務活用のつもりで参加しましたが、周りの皆さんの普段の活用方法を聞いたり、その場でやっているのをお互い見ているときに、授業のためのアイディアがどんどん浮かんできました。隙間時間にできるゲームを作ったり、今までアナログで作っていたシミュレーション教材がデジタルでも作れるのだと思ったので、どんどん作っていみたいです。

•普段利用しているChatGPTに加え、Geminiの良さにも触れたことで、AIは用途や利便性に応じて使い分けることが大切だと実感しました。今後は実際にアプリを使いながら、それぞれの得意分野を理解していきたいです。また、AIを活かすには「プロンプトの工夫」だけでなく、自分自身の「言語能力を高めること」や「明確な完成イメージを持つこと」が重要だと気づきました。











6．アンケート結果

